

名古屋連絡会報告

東海地区は現在、8機関の会員があり名古屋での研修会も毎年1回開催し今年度は4回目を迎えます。今年からは地区の会員が主体となって研修会を開催することになり、その準備のための会合を平成4年6月7日、名古屋市において持ちました。東海地区会員5名と病図協事務局からは会計担当の加島民子氏と私の両名が出席し、名古屋研修会と今後の東海地区会員の協力活動について協議しました。

幹事の笠原廣子氏に世話役をお願いし、前もって寄せられていた当地区会員のアンケートを元に話し合いを進めました。アンケートのうち、研修内容では病院図書室の役割や意義の担当者や管理者へのアピール、ネットワークの必要性、基礎実務やレファレンスなどの図書館学教育、コンピューターや医学用語などの専門的な知識の啓蒙、など多岐にわたる要望がありました。また、東海地区での協力活動のあり方では、当協議会の地域的拡大と共にその中で東海地区独自の活動が望まれています。

こうした会員の熱意と周到な準備から爽やかな会合となり、以下に紹介する形で研修会と協力活動を進めていくことになりました。

名古屋研修会は東海地区の会員で実行委員会を組織して準備運営に当たり、委員には大橋真紀子氏(社会保険中京病院)、大平美里氏(名古屋第一赤十字病院)、林志穂氏(日本赤十字愛知女子短期大学)、荒川直子氏(厚生連更生病院)の4名にお願いしました。委員長は大橋さん、会計は大平さんが担当し、病図協の事務局や研修部と連携しながら事業運営に当たります。

今年度の計画としては10月にレファレンスの初歩をテーマに開催し、講師の1人として木下久美子氏(高山赤十字病院)にお願いすることになりました。形式や内容は実行委員会で検討し運営していきますが、会員が行う事業として従来通り病

図協事業の一環として開催します。したがって必要な人的支援、財政的責任は当然負うこととなります。また、できればもう1回別に負担の少ない勉強会か懇話会形式の研修会を持ち、年2回の開催に向けて努力していくことになりました。

次に、ネットワーク活動については、病院図書室独自のネットワークの意義、会員の主体的な参加と図書館機能の相互補完的な協力活動を目的とする当協議会の理念が評価賛同されていることを再認識しました。病図協としてもこのことを踏まえながら組織運営を進め、特に会の名称変更については、会内外の意向や情勢を今後さらに把握しつつ検討していくことになりました。

また、病図協と地区活動については、病図協の中で近畿とか東海とかのブロック概念は棄て、愛知、岐阜、三重、滋賀、京都、大阪……からの会員で構成されるネットワークであるとの発想で、図書館業務に結びつく協力事業を一步一步着実に広げていきたい。その中で、ひとまとまりの地域性が意味を持つ事業つまり研修会は各地で開催し、その他については一本化が効果的と思われるとの私見を紹介し理解を得ました。

なお、病図協組織と地区活動については病図協の中でさらに練り、協力活動を発展させたいと思っています。また、当日何らかの事情で出席できなかった会員の方々からも貴重なご意見や要望を多数頂いておりました。さらに東海地区会員の方々と共に頂いた昼食も殊のほか美味で、楽しい会合であったことを報告しておきます。

(事務局長 小田中徹也)